

公立大学法人静岡社会健康医学大学院大学評価委員会

令和7年度第2回 会議録

令和7年8月5日(火)

グランディエール プケトーカイ 「コスモス」

午後1時28分開会

【会議開始】

- ・松本委員欠席、5名中4名出席により会議成立

【議題1 令和6事業年度に係る業務の実績に関する評価結果について】

【議題2 第1期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関する評価結果について】

- ・資料1-1、1-2、1-3を元に事務局説明

○委員長

資料1-1検証結果（暫定版）の踏まえて資料1-2令和6事業年度評価結果（案）と1-3第1期中期目標期間見込み評価結果（案）を作成しているため、本日は1-2と1-3について議論をしていただいて、もし修正があった場合は、その内容を1-1のほうにも修正をかける。

○委員

基本的にこの案で良い。入学者の中の医師の比率については課題としてしっかり捉えて頂きたい。

中期目標については、データサイエンスをどうやって入れていくかという問題と、そ

れを解決するAIの活用。これをどういう形で中期目標に入れていったらいいかということを考えていかなければならない。

○委員長

医師の確保に関しては、法人も問題意識は持っており、私も参加させて頂いている別途会議において、法人、県立病院機構の方々と一緒に議論をして方策を練るということを行っている。

AIに関しては、今回の評価は見込評価のため、評価結果に書き込むことは、制度上難しい。この後、法人入室後、今の内容をしっかり議論していただいて、ご意見として発言いただければ。

○委員

データサイエンスについては、静岡県の医療政策など、大きなデータを持っているところに、どうやって大学院大学がサポートしたり関与していくかということが次の大きな課題になってくる。ぜひ積極的に関与頂きたい。

もう1つ、県立総合病院と、臨床研究をタイアップしてきちっとやるということが、学生も増やせるし研究も深める。お互いウィン・ウィンな関係になれると良い。

○委員長

県単位でのデータを生かして、静岡県の医療、静岡県の人たちにどんなことができるかという観点で研究をできるのは県立の大学であるという大きなメリット。それをどう生かすかという問題と、実際に、この大学院大学の場所が、県立総合病院のすぐ隣にあるので県立病院機構が持っている症例を生かしながら臨床研究をするというようなことが実現可能な状態になると、小さな病院に勤めており、臨床研究に興味はあるが、できない医者が大学院大学に入学し、一緒に臨床研究をするという契機になるのではないか。

あとは、県全体のデータを生かしながら、それぞれの地域・市町の特徴を生かして、どんな医療、健康のことについてやっていくかをもう少し突っ込んでやっていただければ

ば、それが県民全体にとって大学院大学のブランド化につながるのではないか。

○委員

本大学院大学はかなりオリジナリティーのある学校。何かモデルとなるようなところというのはあるのか。

○委員長

社会健康の大学院大学というのは、アメリカでは大きな大学院大学が存在し、様々な医療政策を決めていっているようなところがある。医学部とは完全に独立した学部として運営されているところがほとんど。

日本の場合は、社会健康の大学院大学はいくつか存在するが、規模としては小さい。

日本では国や県の医療政策に対していろんなことを言う、シンクタンク的にはまだまだなれていないというのが現状。

本大学院大学の目指すところは、県とか県内の市町村の医療の政策に対するシンクタンク的存在になることではないかと考える。

このほか意見はないか。

評価結果（案）を案どおり認め、評価結果（最終案）としてよろしいか？（異議無し）

< 評価結果案に対する法人の意見申立ての機会付与 >

- ・ 法人関係者入室
- ・ 評価結果（最終案）について事務局説明

○委員長

当委員会の令和6事業年度業務の実績に関する評価結果（最終案）並びに第1期中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績に関する評価結果（最終案）に対し、法人として申し立てられるご意見があれば伺いたい。

○理事長兼学長

年度評価、見込評価共に、おおむね中期目標の達成に向けて順調に進捗しているというご評価をいただき感謝する。

前回ご指摘頂いた、外部資金の獲得については。既に先般の会議でも全教員に強調したところ。

一方、本大学院大学のメイン研究である、ビッグデータサイエンスに関しては、市町との約束で、科研費とか外部資金に研究の申請ができない。

さらにそこから得られた知財についても特許申請の許可が下りない。

今後、県や市町にもご理解をいただき、幅広い活用というものの発展していければ。

また同様に前回ご指摘頂いたブランディングについて。本大学院大学の特徴としては、地域に根ざし、成果の地域還元目的とした大学院大学ということで、今まで頑張ってきました。今後とも継続するとともに、今後産業界との連携についても前向きに考えたい。

最後に、去年指摘されたAIの件に関しまして、昨年指摘され、現在は授業にも反映している。今後AIを専門とする教員も少し採用し、新たな研究のジャンルとして、研究していくということを検討している。

○法人

データサイエンスという分野は、多くはデータ分析の部分と、それからビジネスに関する部分と、それからその分野の固有の知識。この3つが大事な分野。

我が大学院大学は、統計学に関しても、理論統計家ではなくて実践の統計ができるような人たちをつくるということと、今後は卒業生のみならず、在校生、教員共に、必ずしも起業には結びつかなくても、アントレプレナーシップを次の中期目標期間では発展

させていきたいと思っている。

その中で1つ大事なものは、やはりAI。我々の分野でも、例えば特定保健指導。行政のサービスの中でも、AIを使ってカスタマイズした指導をするとか、そういう分野は出てきており、我々もできると思っているので、ほかの大学とも組んで、実行していきたいと考えている。

○理事長兼学長

付け加えさせていただくと、データサイエンスに関しては、静岡理工科大学と今度連携を結ぶことになった。もう1つ、最近MDが少し入学者が漸減しているため、危機感を覚えて、県立病院機構と協定を結ぶ予定。

このように、様々な領域との連携し深めて、私たちの強みをさらに生かしてまいりたい。

○委員長

今のは評価に関する意見所感という形で良いか。

○理事長兼学長

法人としての意見申し立ては無し。所感である。

○委員長

法人からは評価案に関して、意見申し立ては無し。

評価案とは別に、今法人が述べた所感に関して、委員の方々が思われることがあれば、質問して頂ければ。

○委員

大きく4点。1点目は、ブランド化について。単なるブランド化というより、どのステークホルダーに対するものか、明確にすること。例えば法人に対してなのか公共に対してなのか一般社会に対してなのかというようなことから対応策をしっかりと考えて頂きたい。医師が学生に少なくなっているというのも、そのステークホルダーをどこに持っていつているかというところの明確さがあれば、医師が勉強したいということも明確になってくるんじゃないかというふうに思う。ブランド化するときに、「こういう方向に向かって、こういうことをやりたいんです」ということをやることによって、医師学生に入ってきてもらう比率を上げていくということが必要。

2点目はコホート研究について。コホート研究はデータドリブンの学問だと思う。したがってAIをしっかりと使っていないといけないと考える。またなるべく早く使うこと。AIは自分で学習するため、早く使えばAIは偉くなる。早く使うことがものすごく必要ではないか。

3点目は「なぜで知財について特許取得ができないのか」という質問。

4点目は「なぜ起業ができないのか」という質問。

○理事長兼学長

1点目、ステークホルダーの話は、いろんなステークホルダーがいるので、ターゲットが魅力を感じるようなブランディングを設定していきたいと考えている。

たとえば医師に関しては、第2期からは、臨床研究に標的を絞ったコースをつくることを考えている

2点目、コホートとAI。これは仰るとおり。AIを駆使して分析すれば、なぜこういう地域格差が起こるのか、なぜ社会的な格差が起こるのか。そういったことも多分離隔できると思うので活用していきたい。また、場合によってはAIの専任教員を採用したい。

3点目の特許の件に関しては、35の市町から使うことを許されたSKDBというデータにから生まれた知財について、当初の約束では特許申請は許可されていないので、35の市町の詳細を得ないと、特許申請ができない。県にもお願いし、35の市町とも議論していき、柔軟に考えていただいて、ご理解頂きたいと思っている。

4点目の起業は、まだ具体化していないが、そういう知財が生まれてくることによっ

て、していきたいと思っている。

○法人

起業に関して、現在大学院大学の規程で、副業禁止など起業を止めるような内容になっている。現在、関連する規定を変えていくことを考えている。今課題など洗い出しをしているところなので、来年にはより良い方向にできればというふうに思っている。

○委員

医師の大学生を増やすだけではなく、研究を発展させていくためには、やはり県総病院を中心とした県立病院と、本大学院大学がしっかり結びついて、お互いにレベルを上げていくウィン・ウィンの関係になれるような連携を進めて頂きたい。

○委員

先ほど、法人が入室する前に、この大学院大学が静岡県医療に関するシンクタンク的な役割を担っていただきたいという話があった。一県民として、ぜひそのようになっているいただきたいなと強い思いを持ちましたので、ぜひ頑張ってください。

○委員長

AIについて。本大学院大学がやられているような研究内容というのは、割とAIをうまく使いやすいと思うので、ぜひ使ってください、それを生かして、いい研究を始めていただきたいと思う。

(法人関係者退室)

- ・法人関係者退席
- ・評価結果を最終案どおりで確定、以後は委員長一任

【連絡事項 今後の評価スケジュールについて】

- ・資料 2 を元に、事務局説明

午後 2 時44分閉会